

認知症患者が 早期に治療を始められるために

2025年の笠間市の人口はおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者であると見込まれます。また、認知症は5人に1人程度と推測されています。

脳の老化によって誰もが物忘れをしやすいようになりますが、加齢に伴う物忘れと認知症は全く違います。物忘れは覚えてい

ること自体を思い出すまでに時間がかかりますが、認知症はそのこと自体を覚えていられないのです。

認知症は、何かの病気によって脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態をいいます。認知症が進行すると、だんだん理解する力や判断力がなくなると、社会生活や日常生活に支障が出てくるようになります。今では、認知症は決して珍しくなく、誰にでも起こり得ることです。

市には認知症初期集中支援チームがあります。認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域

【問い合わせ】市立病院 TEL 0296-77-0034



で暮らし続けるために、認知症の人やその家族に対し、複数の専門職で構成された専門職が訪問し、早期診断、早期対応に向けた支援を行うチームです。

私は、病棟勤務をしながらその一員として相談委員を担っています。

認知症は早期発見、早期治療に繋げることが重要です。

何か「おかしい」、「ひよっとしたら」という家族や地域の方が気づくことが大切です。家族に気になる症状があった場合、偏見や隠す必要はありません。

かかりつけ医の受診または、地域包括支援センターへご相談ください。支援チームが、かかりつけ医と連携して支援していきます。

笠間の 歴史探訪 47

和尚塚と明治天皇行幸記念碑

国土地理院発行の地形図を見ると、小原の北東部に和尚塚の地名があります。国道五〇号を東へ向かい、小原字滝川を過ぎ、杉崎町(水戸市)地内の坂道を上ると和尚塚の表示が見え、右手に桜の宮ゴルフ倶楽部があります。その入口を進むと、建物の前にある土を高く盛り上げた塚に辿り着きます。

この塚については、「近くの山に時宗の寺があり、本山の高僧が諸国遊行の折、寺に立ち寄り病気になるて死去した。遺言により朝日の峯に埋葬し塚を築いた。これが和尚塚である」と語り伝えられています。『新編常陸国誌』には、「茨城郡和尚塚原ノ内ニアリ、一堆ノ墳ナリ、原名コレヨリ起ル、墓碑塔婆ノ類ナシ、由来詳ナラズ、土人ノ説ニ昔時某和尚入定ノ地ナリト云ヘリ、(後略)」とあります。

現在、この地には「明治天皇駐蹕之地」記念碑が建てられています。明治三十三年(一九〇〇)十一月十日から十七日までの八日間、近衛師団の機動演習が茨城県を中心に行われ、明治天皇は統監・視察のため同月十五日笠間町に行幸されました。翌十六日の朝、特別列車で内原駅へ向かい、同駅から二頭だての馬車で大原村和尚塚へ移動し演習を統監されました。

その後、大原村の人々は記念碑を建て天皇行幸の事蹟を残そうとしました。本

県知事坂仲輔が「明治天皇駐蹕之地」と揮毫、裏面の碑文は栗田勤が撰文・書にて、大正二年(一九一三)に塚の上に建碑しました。ちなみに、栗田勤は笠間の書家亀井有斐の三男で、叔父で国学者栗田寛の養嗣子に迎えられ、養父の遺志を継ぎ『大日本史』を完結させた人物です。更に同村の人々は、毎年十一月十六日に行幸記念祭を催しました。以後、和尚塚は小学校低学年児童たちの徒歩遠足の場所になりました。

戦後、和尚塚のある丘陵地は切り開かれ、昭和三十八年(一九六三)にゴルフ場がオープンしました。今、和尚塚と記念碑は小原字和尚塚のゴルフ場敷地内の高みで、訪れる人にこの地の歴史を伝えています。

(市史研究員 幾浦 忠男)



和尚塚に建つ明治天皇行幸記念碑